



第二中学校だより

R6 ミッション 「期待の登校、満足の下校」

令和7年2月号

↓二中ホームページ↓



人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ

校長 小関 直

表題は、1988年にアメリカ合衆国で出版されたロバート・フルガムの本のタイトルです。教員として子供と向き合う時に大切な視点が含まれており、私にとって大切な本の一冊になっています。この本では、幼少期に学んだ基本的な生活の知恵が、人生を豊かにするということが繰り返し書かれています。特に、共有すること、正直であること、他人を尊重することの大切さなど、シンプルながらも深い教訓が詰まっています。具体的には、

①共有することの大切さ

幼少期の集団では、おもちゃや道具を友達と共有することを学びます。これは、大人になっても重要なスキルです。

②正直であること

幼少期の集団では、嘘をつかないことの大切さを学びます。正直であることは、信頼を得るための基本です。

③他人を尊重すること

幼少期の集団では、友達を尊重し、思いやりを持つことを学びます。

これら幼少期の集団における体験価値は、大人になって重要なスキルとして活用が図られます。①友達や家族と物や時間を共有することで、信頼関係を築き、②正直な態度で周囲と接することで、信頼される人間になり、③他人の意見や感情を尊重することで、より良い人間関係を築きます。

集団的な学びによる体験価値獲得の難しさ

一般論としては、多くの方に賛同いただけたとは思いますが、現実には、年々厳しくなっているように強く感じます。集団における体験価値によって身に付けるべきコミュニケーション力は引き続き重要な教育課題である一方、多様性や個の尊重も近年は非常に重要な価値観となっています。そのため、いくつかの弊害も顕在化するようになってきました。その一つは、「孤独感の増加」です。多様性を尊重することで、個々の価値観や意見を尊重することが強調される一方で、他者との深いコミュニケーションが減少し、孤独感を感じるが増えたとも言われます。個人の自由が、議論や対話を避けるために使われることがあり、結果として孤立感を生むことがあると思います。もう一つは、「ステレオタイプ脅威」です。多様性を強調することで、特定の集団に対するステレオタイプが強化されるリスクがあると言われます。例えば、動画配信サイトの急激な普及と機能の向上です。興味ある内容が優先して表示されるため、価値観の異なる表現に出会う機会は限定的になりがちです。価値観が合うものに囲まれているので、興味

も尖ったものとなり、異なる価値観を受け入れにくくなっていると思います。攻撃的な言動が一気に広がる一方、批判を避けたい心情が同調圧力となり、多様な意見が出にくくなっています。昨年全国的に流行した「スーパーマンチャレンジ」はその例です。次から次に表示されるおすめのチャレンジ動画に「面白いからやってみよう」という価値づけがされ、「危ないからやるな」という意見はかき消されました。その結果、各地で何人ものけが人が出たことは記憶に新しいところです。

経験を意図的に積む

集団的な学びと多様性や個の尊重という価値観を共存させるのは、やはり、「教育」ということになります。学校は、意図的、計画的な教育活動を日常的に実践する場です。自分の意見を主張するだけでなく、相手の視点に立って接することは極めて重要です。授業での話し合い活動、学級における当番、係などの役割分担、学年・学校単位で行われる委員会活動、異学年で行う部活動など学びの場は多様です。教員の力量により構築された安心できる環境の中で Try&Error を繰り返し、やがてコミュニケーションの有用性に気づき、年齢相応のスキルを身に付けてもらいたいと思います。

ご家庭へのお願いです。社会通念の多様化もあり、複雑さが増すばかりの時代ではありますが、コミュニケーションの価値はさほど変わらないと思います。家庭での役割分担や、家族で一緒に過ごす有意義な時間を通じて**共有することの大切さ**を教えてください。また、日常の会話で正直さを重んじる姿勢を示すことで**正直であること**の大切さを体感させて欲しいと思います。加えて、家族間での意見交換や、他人を思いやる行動を見せることで**他人を尊重すること**の意義を伝えていただきたいと思います。

家庭教育、学校教育、社会教育の場を通じて、社会総出で子供を教え育てる時代に突入しています。体罰、説教、過保護・過干渉、放任、無関心では、まともに育ちません。引き続き、皆様と連携して取り組んでまいりたいと存じます。

日程のご確認をお願いします！

現在、来年度の**体育祭**を修学旅行、合唱祭、学総等の日程及び熱中症対策の関係から、**11月29日(土)に行う予定**です。しかしながら、週休日は、地域の恒例行事とも重なる可能性があり、混乱を招かないよう慎重に検討する必要があります。つきましては、予め**地域の恒例行事が11月29日に組まれていないか、今月中に情報をお寄せください**。もし組まれている場合は、日程調整を行いますのでご協力をお願いします。

いじめの認知件数(年間)

1学期32件、2学期61件、1月24件 年間117件

※年齢相応のコミュニケーション力の未確立(社会性の未発達)が、いじめの認知につながるケースが大多数です。そのため、加害生徒には、「それがいじめになる」という自覚はほぼありません。ですから、1年生は入学直後が特に多く、2年生になると実人数は減るものの、特定の生徒が無自覚に不調和な言動を繰り返し、加害にも被害にもなるというケースが目立つようになり、3年生は月を追うごとに件数が減っていくという傾向が見られます。まさに、「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」の裏返しです。